

家庭学習の手引き

— 3年生・4年生用 —

始良市立始良小学校

これは、3・4年生のみなさんが、家でどのような学習をすればよいかをまとめたものです。

今日、学校でどんな学習をしたか覚えていますか。学習したことを家で復習して、確認してみましょう。そして、明日の学習の内容を見てみましょう。

復習をすると明日の学習がより分かりやすくなります。また、予習をすると次の学習の見通しがもて、問題意識をもって学習にのぞむことができます。

【宅習を始める前の約束】

- 1 テレビやゲームのスイッチを消しましょう。
- 2 学校からの手紙やれんらくはないか確かめ、家の人にきちんとわたしましょう。
- 3 机の上を整理・整頓しましょう。
※ 教科書やノートなど、学習の道具をきちんとそろえましょう。
- 4 部屋を明るくし、正しいしせいで、学習をしましょう。

【宅習時間の約束】

- 1 宅習は、夜おそくならないように、できるだけ早い時こくに始めましょう。
- 2 宅習は、毎日がんばりましょう。「けい続は力なり」です。
- 3 3年生は、1日「50分」以上学習しましょう。
- 4 4年生は、1日「60分」以上学習しましょう。

【勉強時間の基本的な考え方】

- ①第3学年：「基本時間20分」＋「10分×学年数」＝20＋30＝50分
- ②第4学年：「基本時間20分」＋「10分×学年数」＝20＋40＝60分

さあ、始めましょう

【宅習内^{やくそく}よ^{やくそく}うの約束】

1 宿^{しゅくだい}題があるときは、まず、それから終わらせましょう。

分^{わか}りもしも、
からない時は

- (1) 学校で学習したことを思い出しましょう。
- (2) ノートを見ながら、考えてみましょう。
- (3) 教科書やさんこう書を読みながら、考えてみましょう。
- (4) 家の人に聞いてみましょう。教えてくれる人がいなかった場合は、次の日に、先生や友だちにたずねましょう。



自分の分からないところに気づいたり、見つけたりできるのは、とてもすばらしいことです。分からないことは、先生や友だちに聞いたり、教えてもらったりして、かならず分かるようにしましょう。

2 漢字の練習をしましょう。

- (1) 読みがなや送りがなまで、ていねいに書きましょう。
- (2) 教科書や漢字ドリルなどの漢字を書きましょう。
- (3) 習った漢字が書けるようになったら、新しい漢字にもどんどんちょうせんしましょう。

3 国語の教科書で、学習したところを読みましょう。

※ 意味が分からない言葉は、じてんで調べましょう。

4 算数は、今日学習した問題をもう一度やってみましょう。

※ 問題^{もんだいしゅう}集などを使って、似たような問題をやりましょう。はかせマークも^{かくにん}確認しましょう。

5 理科や社会は、今日学習したところをもう一回読みましょう。

※ 大切なところや言葉を、宅習ノートにまとめましょう。

6 明日、学習するところを見てみましょう。

※ むずかしそうなところや、意味が分からないところをおさえておきましょう。

7 テストが返されたら、間ちがえた問題を、もう一度といてみましょう。

8 進んで、読書をしましょう。

※ 自分がきょうみのある本を図書館からかりて読んでみましょう。

9 今日一日の生活をふり返り、感想^{かんそう}を入れて日記にくわしく書きましょう。

宅習が終わったら

【宅習が終わってからの約束】

1 明日の時間割を確かめて、持って行くものをじゅんびしましょう。

- (1) 教科書・ノート・筆箱^{ふでばこ}・下じき・宿題などをかばんに入れましたか。
- (2) 筆箱には、鉛筆^{えんぴつ}（5～6本）、赤鉛筆、青鉛筆、消しゴム^{じょう}、定^{じょう}ぎが入っていますか。
- (3) 体育服、ハンカチ、ちり紙、ぼうし、ネームをじゅんびしましたか。

家庭学習の手引き

— 3・4年生 —

【 国 語 】

- ◎ 漢字の練習をしましょう。
 - 読みがなや送りがなまで、ていねいに書きましょう。
 - 教科書や漢字ドリルなどの漢字を書きましょう。
 - 漢字が書けるようになったら、新しい漢字にちょうせんしましょう。
- ◎ 教科書の学習したところを音読しましょう。
 - 意味が分からない言葉は、じてんで調べましょう。

【 理科・社会 】

- ◎ 今日学習したところを、もう一回読んでみましょう。(教科書やノート)
 - 大切なところや言葉を、宅習ノートにまとめましょう。

【 本を読もう 】

- ◎ 教科書は、声を出して、すらすら読めるように練習しましょう。
- ◎ たくさん本をかりて読みましょう。

【 算 数 】

- ◎ 今日学習した問題を、もう一度やってみましょう。
 - 問題集などを使って、似たような問題をやりましょう。
 - はかせマークも確認しましょう。
- ◎ テストが返されたら、間ちがえた問題をもう一度といてみましょう。
 - どうして間ちがえたのか確認しましょう。
- ◎ 次に習うところを予習しましょう。

【 ローマ字 】

- ◎ ローマ字を、書いたり読んだりして練習しましょう。

【 日 記 】

- ◎ 今日一日の生活をふり返り、感想を入れて日記にくわしく書きましょう。
 - 気づいたことや見つけたことなど、くわしく書きましょう。
 - 習った漢字は、進んで使いましょう。
 - 書いたら必ず読み直しましょう。

◎ このほかにも、先生から「課題」^{かだい}が出されることがあるので、よく説明を聞いて、取り組みましょう。

◎ 50～60分は、しっかり学習できるようにがんばりましょう。

＜宅習ノートのまとめ方 国語＞

- 新しい学習に入ったときに、その学習に出てくる言葉の意味調べをします。
- 調べた言葉で短文作りをしてみます。
- 学習したことを、大事なことをおさえて下の例のようにまとめてみます。

○月○日○曜日

「漢字辞典の使い方」

※ 新しい単元に入った時に、意味調べをしておく学習しやすいです。

※ 調べた言葉で、短文を作るといいです。

9	7	5	3	ページ
4	2	7	1	行
天てき	のき下	半ば	なじみ	わからない言葉
えさとなつてゐる動物側から見、とつて食う側の動物を指している言葉。		真ん中。	なれていて親しいこと。	意味

「ツバメがすむ町」 意味調べ

○月○日○曜日

「漢字辞典の使い方」

※ 学習したことをノートや教科書を見てまとめるとよいです。

数に分類され、部首がわかっているとき。

部首引き・・・読み方はわからないが、部首がわかっているとき。

総画数引き・・・読み方も部首もわからないとき。

音訓引き・・・読み方がわかっているとき。

＜宅習ノートのまとめ方 社会＞

- 授業で学習したことを、ノートや教科書を参考にまとめてみます。
- 大事な言葉をわかりやすく、絵や図なども取り入れてまとめます。
- 学習したことの簡単な感想なども書いてみるといいです。

○月○日○曜日

水はどこから

＜じょう水場の仕組み＞

水をきれいにして送るところ。

思川 → 取水口 → ちんでん池 → ろか池 (消毒) → 配水池 → 町や学校

- ちんでん・・・ゴミやすなをしずめる。
- ろか・・・水をこしてきれいにする。
- 取水口・・・川から水を取り入れる所。
- 配水池・・・きれいにした水を一時ためておく所。

＜かんい水道＞・・・地下水をくみ上げ、消毒して使うところもある。

＜宅習ノートのまとめ方 算数＞

- 教科書やドリルの問題を、下の例のようにノートに書いていきます。
- 上下左右を1マスずつあけると、とても見やすいノートになります。
- 線は必ず定規を使って引くようにします。
- 計算のあとは大事な宝物！消さずに残しておきます。
- 答え合わせもして、間違った問題は必ずやり直しをします。

○月○日○曜日

わり算

① $316 \div 4 = 79$

$$\begin{array}{r} 79 \\ 4 \overline{) 316} \\ \underline{28} \\ 36 \\ \underline{36} \\ 0 \end{array}$$

③ $173 \div 2 = 86 \dots 1$

$$\begin{array}{r} 86 \\ 2 \overline{) 173} \\ \underline{16} \\ 13 \\ \underline{12} \\ 1 \end{array}$$

② $552 \div 6 = 92$

$$\begin{array}{r} 92 \\ 6 \overline{) 552} \\ \underline{54} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

④ $581 \div 9 = 64 \dots 5$

$$\begin{array}{r} 64 \\ 9 \overline{) 581} \\ \underline{54} \\ 41 \\ \underline{36} \\ 5 \end{array}$$

※※ 答え合わせをしてまちがえたり、博士マークなどもまとめよう。

② 式 $12 \div 6$

$$\begin{array}{r} 2 \\ 6 \overline{) 12} \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$$

文章問題の場合、まず式を書く。

次にひっ算。

答え 2本 ← 答え単位も忘れずに。

＜宅習ノートのまとめ方 理科＞

- 授業で学習したことを、ノートや教科書をもとにまとめていきます。(まる写しするのではなく、ポイントを押さえてまとめていきます。)
- 問題→実験の方法→結果→わかったことをまとめていきます。
- 実験の手順や使う道具、大事な言葉、注意することなどしっかりおさえましょう。
- 図、絵、表も取り入れ、赤ペンや青ペンを使ってわかりやすくまとめよう。

○月○日○曜日

電気のはたらき

めあて モーターの回る向きを変えるには、どうすればよいだろう。

方法

検流計を使って調べる。

○ 電気の向きを調べるもの。

○ つなぐものに合わせて、レバーをきりかえる。

※ かん電池だけとつないではいけない。

結果

① のとき

② のとき

↑ 検流計の針の動きを見る。

↑ 電池の向きを逆にしてみる。

わかったこと

かん電池の向きを逆にすると、電流の向きも逆になりモーターの回る向きを逆にできる。